

旭川市まちづくり基本条例（仮称）平成24年度市民報告会
～あさっぴーと一緒に「もちづくり」で「まちづくり」を考えよう！～ 開催結果

- 1 日時：平成25年3月24日（日） 9時30分～12時
2 場所：旭川市市民活動交流センターCoCoDe（ココデ）ホール
3 参加者
- | | |
|--------------------------------|----------|
| ・一般申込み | 70名 |
| ・旭川市まちづくり基本条例市民検討会議 | 16名 |
| ・庁内ワーキンググループ | 22名 |
| ・ボランティアスタッフ（旭川NPOサポートセンター及び個人） | 5名 |
| ・事務局等，市関係者 | 20名 |
| | （合計）133名 |

4 開催結果

(1) 第1部

- ①旭川市長あいさつ
②八重樫会長あいさつ
③旭川市まちづくり基本条例市民検討会議からの報告
・スライドを使って委員（2名）から説明
質疑応答～意見なし
④庁内ワーキンググループからの報告
・スライドを使って庁内ワーキンググループリーダーから説明
質疑応答～民生委員の役割が入っていないが，一般市民の中に含まれているという理解で良いか
→報告書に書いていないからそういう扱いというわけではない。
あくまでも庁内ワーキンググループの案であり，足りない部分は成案化の際に考慮されると考えている。

(2) 第2部

6班に分かれ，それぞれに市民検討会議委員，庁内ワーキンググループメンバーが入り，餅つき及び「まちづくり」に関するワークショップを実施

【主な意見】

<1班>

- ・市民が気軽に意見を言い，それを広く聞いてもらえる場があると良い。
- ・趣旨が良くわからなかった。参加者には事前に資料を配付してもらえたらもっと理解できた。
- ・「もちづくり」で「まちづくり」を考えるという発想は市民の参加を促すうえで良いと思うが，グループで討議する時間が少ないのはもったいない。
- ・まちづくりの中で市民参加が少なかったから，市民と市との間に溝があるのではないか。
- ・協働を進めるといっているのであれば，市はもっと市民生活の実態を把握するべきだ。
- ・自分は田舎で育ったが，昔は生活の中で不便を感じる事があったら隣近所で協力して解決していた。今は何でも市役所になんとかしてもらおうと要望する。そのような考え方も見直さないとならない。

<2班>

- ・「もちづくり」と「まちづくり」の共通点から考えた。両方とも「みんなで取り組むと早く終わる。スピード感が大事。」「みんなですると楽しい。」「それぞれの役割がある。」などの意見があった。
- ・もちづくりでは，自分がちょっとでもできることをして，みんながかかわることで，最後はおいしいお汁粉ができるように，まちづくりも，自分ができるちょっとしたことをやることによって，少しでもよいまちになり，それがまちづくりにつながるのではないか。

< 3 班 >

- ・もちづくりは、つく人、かえす人、かけ声をかける人、運ぶ人、丸める人、お汁粉を作る人・・・いろいろな人がいてそれぞれの役割を果たして、お汁粉という1つの目標に向かってみんなが力を合わせてできあがるもの。このようなイメージを大きくしたものが、まちづくりである。このまちづくりの担い手は、市民、行政、議会などであり、それぞれが力を合わせて作り上げていくものである。

< 4 班 >

- ①「もちづくり」と「まちづくり」の共通点
 - ・もちづくりには「もち米」が必要。まちづくりには「人」が必要。
 - ・一人では成しえない。その過程の中で、様々な役割がある。皆がその役割をきちんと行うことで達成されるとともに、連帯意識が生まれる。
- ②旭川市の良いところ、好きなおところ、強み等
 - ・旭川市は災害が少なく、住みやすいまち。地震も少ないし、あっても分からないくらいの程度である。
 - ・四季の変化が明確であるとともに気候がいい。寒暖の差があり、本州より暑くなりすぎない。
 - ・旭川は、すばらしい文学作家が多く活動してきた。もっとスポットをあてることでアピールに繋がる。
 - ・他のまちに住んでみて、旭川市の良さに気付いた。人柄、マナーなど、旭川の良さは引っ越ししたら分かる。(本州に引っ越しした方から、離れてから旭川の良さを実感したとの話を聞いた。)
 - ・美しい街(この方は春光台に居住しており、そこからの眺め→川や山の景色がよいとのこと。)
- ③その他
 - ・まちづくりには「人」が必要なので、もっと人口を増やすことに力を注いでほしい。
 - ・住宅補助等を手厚くすれば、住んでくれる人が増えるのでは。働き口も大事。
 - ・冬の除雪に不満を抱える市民も多いようだ。
 - ・1カ月前に釧路から転入してきたが、雪の多さに驚いた。
 - ・子どもが餅つきをしたいということで参加した。今日のまちづくりの話は子どもたちには少し難しかったように思う。ただ、どのような受け止めて考えるかは子どもたち次第なので、機会は大事なのかなとも思う。
 - ・まちづくりに対しての市への意見であるが、少数意見を取り上げるべきである。少数意見には良い意見がある場合がある。多数意見ばかりを取り上げないようにするべき。
 - ・住宅新築の際に補助金が旭川市では出ます！というようにアピールすれば、旭川に引っ越して新築する人も増え、人口も増えるのではないか。
 - ・伝統を大事にするのも必要であるが、新しいものを作っていくことも必要。買物公園も旭山動物園もあとから作り出した物で、もともとあったものではないのでこうした新しく作る伝統も大事である。
 - ・買物公園の歩行者天国をやめて、車を通行させた方がいい。

< 5 班 >

- ・今の旭川市ができあがるまでの歴史等を重んじたほうがよい。
- ・担い手の育成について、公民館などでは好きなことをやるために人が集まり、自然と誰かがリーダーシップをとりながらうまくやっている。コミュニティに参加してもらえば、自然と担い手は育っていくものである。公民館での活動は重要である。
- ・市長への手紙は本当に市長が目を通していいのか？もっと風通しをよくしていかなければならない。
- ・市にとって不都合なことでもさらけだし、実情を理解してもらうことが必要である。
- ・個人情報保護といっても、可能なものは情報公開していく必要がある。
- ・高齢化社会について、65歳を超えてもまだまだ頑張れる。
- ・少子化問題について、外国での成功例などを勉強し参考にしたほうがよい。
- ・条例は町内会に何を求めているのか？
→自分たちでできることは自分で、できないことは行政が補完していく形にしたい。
- ・町内会に加入しない人が増えている。加入していない人もごみを捨てるし、よそから持ってくる人もいる。例えコストが増大しても、自分たちの家の前において持っていったらもらうほうが、きれいにするし、分別も責任をもってするようになると思う。
- ・条例も大切だが、実行していくことが大切である。
- ・これだけの内容をあと1年で決めるのは期間が短すぎる。
- ・今日は餅がテーマだけに、条例が「絵に描いた餅」にならないように。

< 6 班 >

- ・富沢地区で地域おこしの活動をしている。地域が良くなるためのヒントが得られるかと思い参加した。富沢地区は農地としての規制がかかっている、用途が厳しく制限されている。何か作ろうとしてもダメと言われる。富沢小学校も特認校ゆえ、学童保育もつくれる。共働きが多い時代なので、年々児童が減少している。
- ・市の中心部で働いている。人が集まってくる場所をいかにつくるかという観点での「まちづくり」を考えて活動している。市民検討会議に参加して視野が広がった。
- ・以前、まちなかワークショップに参加してまちづくりについて討論した経験がある。その時の参加者は年齢層が高く、自分と同じくらいの20～30代が少なかったことに危機感を覚えた。どうしたら若い人を取り込めるか考えている。
- ・大学生であり、今回は指導教授の誘いで参加した。まちづくりに携わりたい。
- ・豊岡の町内会婦人部で活動。町内会のリーダーの誘いで今回参加。豊岡地区では新しくできた町内会館を中心にイベントを積極的にやっている。餅つきもやった。自分から発案して行動はできないけれど、町内会で誘いを受けたら積極的に関わっている。イベントは楽しい。
- ・神楽地区まちづくり推進委員会の委員。古くは商工会の時代（20年以上前）から地域おこしの活動をしていた。最近の何でも行政にお願いするという風潮に危機感を持っている。ただ、現代社会で人を集めて何かをやるという苦労もよく知っている。神楽地区では、地区ならではの課題として、水害が考えられるので、防災に力を入れている。
- ・神楽地区在住。地区で行事をやってもあまり人が集まらない。誘ってくれる人がいるというのが重要。
- ・幼児と参加した。共働きなので、平日の昼間の子供向けイベントには参加することが出来ない。今回は日曜日開催ということで来た。（しかし、イメージしていた内容と違った）
- ・急な仕事するとき、子どもを預ける施設が欲しい。病児保育もあるのは知っているが、事前登録制だし、定員が数名なので電話しにくいので、始めからあきらめている。情報が足りない。
- ・民生委員をやっている。町内会の加入率を上げたい。アパートは若い人が多く、ほとんどが未加入。条例で強制できないものか。デイサービスや介護ヘルパーの車が駐車違反で捕まる。市と道警でなんとかできないだろうか。

全体のコーディネーターから、「まちづくり」と「もちづくり」は役割分担をしながら、楽しく、できるところからやっていくことが重要と確認するとともに、今回をきっかけに条例について関心を持ってもらいたいと話し、終了した。